理科

1年 物理基礎

1年 生物基礎

2年 物理基礎

2年 化学基礎

2年 地学基礎

2年 生物基礎演習Ⅱ

2年 理数探究基礎

3年 物理

3年 化学

3年 生物

3年 物理演習

3年 化学演習

3年 生物演習

3年 物理基礎演習Ⅲ

3年 化学基礎演習Ⅲ

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者			
1年生 特進	<u>ニース</u> Iクラス	ζ.	理科	物理基礎		必修	2単位	山下 遥			
教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等 数研 新課程物理基礎 学習ノート						
授業の	ねらい	物体に働く力	こと運動との「	関係を理解し	、運動が基本	×的な法則に	基づいている	らことを理解する。			
学習上6	の留意点	現象につい ⁻	見象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。								
評価	方法		4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、 験レポート、授業態度を総合的に評価。								
観点短	別評価	し、課題を解え	下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。								
学習計画	考査		単元				学習目標				
1	中間	運藤の表し変位と速度 変位と速度 等速直線運 速度の合成	動			の違い、位置 いを読み取り、		解する。			
期	期末	速度・加速度									
2	中間	落下運動力				投下速度運動		を理解する。			
期	期末	運動の法則			運動の3法貝の公式を使り	川、摩擦力や い理解する。	孚力、運動方	7程式など			
3 学 期	学年末	仕事と力学的	的エネルギー	-	仕事の原理 を理解する。		、仕事とエネ	ベルギーの関連性			

				2024年度	シラバス					
	対象		教科		目名	単	.位	担当者		
1年生 特進	<u></u> コースSクラ	ス	理科	物理基礎		必修	2単位	山下 遥		
教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等	数研 新課科	呈物理基礎	学習ノート		
授業の	ねらい	物体に働く力	こと運動との	関係を理解し	ン、運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。					
学習上の	の留意点	現象につい ⁻	て理解し、公	式を覚えるだ	けでなく意味	についても考	きえるようにす	- ること。		
評価	i方法			期中間・期末 を総合的に評		末)行われる	定期試験や	授業内で行う小テスト、		
観点短	別評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	技能の習得で け等を身につけ こ学ぼうとする	トているかどうフ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	運藤の表し 変位と速度 等速直線運				の違い、位置				
学		速度の合成			グラフの違い	い を読み取り、 	、その特徴に 	ついて理解する。 		
期	期末	速度・加速度	₹		経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との 関係を知る。					
		落下運動			落下運動が	投下速度運動	動であることを	を理解する。		
2 学	中間	カ			力と運動につ	ついて理解す	· a .			
期	期末	運動の法則				川、摩擦力や	— - — - — - 浮力 、運動方	 程式など		
		さまざまなカ	1		の公式を使り	ハ理解する。				
3		仕事と力学的	的エネルギー	-	仕事の原理 を理解する。		、、仕事とエネ	ベルギーの関連性		
学	学年末									
期										
		1			1					

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	位		担当者		
1年生 進学	≐コースAクラ	ス	理科	物理基礎		必修	2単位	山内	優斗·馬場	幸一	
教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等 数研 新課程物理基礎 学習ノート						
授業の	ねらい	物体に働く力	こと運動との	関係を理解し	、運動が基本	5的な法則に	基づいている	ことをヨ	理解する。		
学習上の	の留意点	現象につい ⁻	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。								
評価	方法		F4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、 ミ験レポート、授業態度を総合的に評価。								
観点別	引評価	し、課題を解え	央するために必	BCで評価する を要な思考力・ こつけるために	判断力・表現力	り等を身につけ	ているかどうフ	かの評価	53知識・技能		
学習計画	考査		単元				学習目標				
1	中間	運藤の表し 変位と速度 等速直線運 速度の合成	動			の違い、位置 いを読み取り、					
期	期末	速度・加速度	- -								
2	中間	落下運動力				投下速度運動		を理解す	する。		
期	期末	運動の法則			運動の3法貝の公式を使(リ、摩擦力や い理解する。	孚力、運動方	祖式な	 :E		
3 学 期	学年末	仕事と力学的	的エネルギー	-	仕事の原理 を理解する。	について学び	、仕事とエネ	ベルギー	-の関連性		

				2024年度	シラバス					
	対象		教科		1名	単	i位	担当者		
1年生 特進	コースIクラス	ζ	理科	生物基礎		必修	2単位	村山 洋		
教科書	東京書籍「	生物基礎」			副教材等	東京書籍「	「ニューステッ	プアップ生物基礎」		
授業の	ねらい							な内容を、最先端の生物 きる力を身に着		
学習上(の留意点	生物の独自	ノートを作る。	。板書事項を	必ずノートに	取る。プリント	〜を必ず提出 [・]	する。		
評価	i方法	年4回(1学 に評価。	期期末、2学期	期中間·期末	、3学期学年	末)行われる	定期試験、小	トテスト、平常点を総合的		
観点5	別評価	し、課題を解え		必要な思考力・	判断力・表現力)等を身につけ	けているかどうだ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1 学	中間		の特徴)多様性と共気 ・動とエネルギ		・生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。					
期	期末	第2編 遺伝情	ミ子とそのはか 情報とDNA	たらき	・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明の経緯について学ぶ。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。					
2	中間	第3編 ヒト(情報とタンパク の体の調節 環境と情報伝		・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓の働きを学ぶ。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。					
期	期末				・ホルモンを	分泌する内分		の調節のしくみを学ぶ。 消化液などを分泌する て学ぶ。		
3 学 期	学年末	2章 免疫の 4編 生物の 1章 植生と)多様性と生!	態系	・異物の体内への侵入を防いだり、排除するしくみを学ぶ。 ・自然免疫と体液性免疫など複雑な免疫機構について学ぶ。 ・アレルギーやアナフィラキシーショック、AIDSについて学ぶ。 ・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷 移が生じるメカニズムを学ぶ。					

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者			
1年生 特進	コースSクラン	z	理科	生物基礎		必修	2単位	村山 洋			
教科書	東京書籍「	生物基礎」			副教材等	東京書籍「	ニューステッ	プアップ生物基礎」			
授業の	かならい						といった基礎 ポイントを身1	的な内容を、最先端の生 こ付ける。			
学習上の	の留意点	生物の独自	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。								
評価	ī方法	年4回(1学) に評価。	4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的評価。								
観点5	引評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	り等を身につけ		平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。			
学習計画	考査		単元				学習目標				
1 学	中間		の特徴 9多様性と共 う動とエネルギ		・生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。						
期	期末	第2編 遺伝信	子とそのはだ 報とDNA	たらき	・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明の経緯について学ぶ。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。						
2 学	中間	第3編 ヒト(報とタンパクの体の調節 場境と情報伝		・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓の働きを学ぶ。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。						
期	期末				・ホルモンを	分泌する内分		の調節のしくみを学ぶ。 消化液などを分泌する C学ぶ。			
3 学 期	学年末	2章 免疫の 4編 生物の 1章 植生と)多様性と生!	態系	 ・異物の体内への侵入を防いだり、排除するしくみを学ぶ。 ・自然免疫と体液性免疫など複雑な免疫機構について学ぶ。 ・アレルギーやアナフィラキシーショック、AIDSについて学ぶ。 ・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。 						

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	i位		担当者		
1年生 進学	≐コースAクラ	ス	理科	生物基礎		必修	2単位	佐藤 村山	潤·三浦 敏 洋		
教科書	東京書籍「	生物基礎」			副教材	東京書籍「	ニューアチー	-ブ生物	基礎」		
授業の	ねらい						といった基礎 から科学的な		容を、最先端の生 シーを養う。		
学習上(の留意点	生物の独自	ノートを作る。	。板書事項を	必ずノートに	取る。プリント	~を必ず提出で	する。			
評価	i方法	年4回(1学 に評価。	∓4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的 ニ評価。								
観点5	別評価	し、課題を解え	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識 し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③ 考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。								
学習計画	考査		単元				学習目標				
1 学	中間		の特徴)多様性と共気動とエネルギ		・生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。						
期	期末	第2編 遺伝情	ミ子とそのはか 情報とDNA	たらき	・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明の経緯について学ぶ。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。						
2	中間	第3編 ヒト(情報とタンパク の体の調節 環境と情報伝:		・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓の働きを学ぶ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。						
期	期末				・ホルモンを	分泌する内分		消化液	のしくみを学ぶ。 などを分泌する		
3 学 期	学年末	2章 免疫の 4編 生物の 1章 植生と)多様性と生!	態系	 ・異物の体内への侵入を防いだり、排除するしくみを学ぶ。 ・自然免疫と体液性免疫など複雑な免疫機構について学ぶ。 ・アレルギーやアナフィラキシーショック、AIDSについて学ぶ。 ・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。 						

対象 教科 科目名 単位 担当者					2024年度	シラバス						
数科書 数研「物理基礎」 調教材等 数研「リードに向けノート物理基礎」 接案のねらい 物体に触く力と運動との関係を理解し、運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。 日常に最も密接な電気について理解し、様々な現象と表別は世習を呼る。 日常に最も密接な電気について理解し、様々な現象とそのしくみについて理解する。 学習上の留意点 現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。 評価方法 年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や 授業内で行うハテスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。 以下の3級点をそれぞれ、ARDが目断が支援したがらい。自ら結婚的に学ほうとする姿勢があるかの評価。 現実経験技事をおしいを変も思考か、判断が表現力を身につけるために、自ら結婚的に学ほうとする姿勢があるかの評価。 学習計画 考査 単元 学習目標 経過時間と移動距離との関係をいら時刻と位置との関係を知る。 方か・判断が表現力を身につけるために、自ら結婚的に学ほうとする姿勢があるかの評価。 対策を対象力を身につけるがあることを理解する。 力と運動について理解する。 力と運動について理解する。 力と運動について理解する。 力と運動の3法則、降降力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。 本書を理解する。 本書を確認し、固有振動について理解する。 本書を確認し、固有振動について理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、発電機の原理を理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、発電機の原理を理解する。 世界の基本について学び、発電機の原理を理解する。 本語と展動 単年本 世界の基本について学び、発電機の原理を理解する。 世界の原理を理解する。 世		対象		教科	科目	1名	単	位位	担当者			
投業のねらい	2年生 特進	ニースSクラ	ス(理系)	理科	物理基礎		必修	3単位	樋口 雅浩			
授業のねらい 液の基本的な性質を学び、反射・屈折・回が現象の法則性を理解する。 日常に最も密接な電気について理解し、様々な現象とそのしくみについて理解する。 日常に最も密接な電気について理解し、様々な現象とそのしくみについて理解する。 宇価方法 年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や 授業内で行うかテスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。 以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要を思考か、判断力、表現力を身につけるために、自ら積極的に学ほうとする姿勢があるかの評価。 本力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ほうとする姿勢があるかの評価。 本元 学習計画 考査 単元 学習動機 学正 学正 経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との関係を知る。 力 力 力 力 力 上運動が投下速度運動であることを理解する。 力 力 力 上運動について理解する。 連動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。 さまざまな力 仕事と力学的エネルギー 仕事の原理について学び、仕事とエネルギーの関連性を理解する。 熱か利用 熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。 熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。 熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。 歳の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 単学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。 ・電流と磁界 ・電流について学び、発電機の原理を理解する。 ・電流に対して発酵する ・電流は対しなどを発酵する ・電流は対しなどを発酵する ・電流は対して発酵する ・電流は、発酵が、・電流は、・電流は、・電流は、・電流は、・電流は、・電流は、・電流は、・電流は	教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等	数研 「リー	ドLightノート	物理基礎」			
	授業の	ねらい	波の基本的	な性質を学び	バ、反射・屈折	•回折現象の	D法則性を理	解する。				
接案内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。 製点別評価	学習上0	の留意点	現象につい [.]	見象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。 								
観点別評価	評価	方法										
速度・加速度 経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との関係を知る。 落下運動	観点別	別評価	し、課題を解え	決するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	り等を身につけ	ナているかどう	かの評価③知識・技能や思			
中間 落下運動	学習計画	考査										
落下運動 落下運動が投下速度運動であることを理解する。 カと運動について理解する。 カと運動について理解する。 運動の法則 期末 運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式など の公式を使い理解する。 仕事と力学的エネルギー 熱と温度 熱の利用 ・中間 ・ 放の性質 ・ 放の性質 ・ 放の性質 ・ 放の性質 ・ 放の性質 ・ 放の性質 ・ 放の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。 ・ 電流と電気抵抗 ・ 電気の基本について学び、発電機の原理を理解する。		4.88	速度・加速度	麦)関係から時	刻と位置との関係を知る。					
プリスタイプ (東京の法則) では、	1	中间 							を理解する。			
期末 運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。	学											
中間 熱と温度 熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。 熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。 熱の利用 熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。	期	期末							7程式など			
2 熱と温度 熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。 熱の利用 熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。 波の性質 波の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。			仕事と力学的	 的エネルギー	-			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トルギーの関連性			
 熱の利用 熟力学第一法則や熱機関について学ぶ。 波の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。 おの表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 学 学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。 		中間	熱と温度			熱運動や内	部エネルギ-	−、物質の三	態について理解する。			
期末 音と振動 音も波であることを確認し、固有振動について理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 3 学 学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。		·	熱の利用 			熱力学第一	法則や熱機	関について学	ీసం —-—			
音と振動 音も波であることを確認し、固有振動について理解する。 電流と電気抵抗 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 3 学 学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。	期	#I *	波の性質			波の表し方 ⁻	や伝わり方、	横波や縦波な	などを理解する。			
3 学 学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。		州木	音と振動			音も波である	ることを確認し	ン、固有振動	について理解する。			
学 学年末 電流と磁界 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。	3		電流と電気	抵抗		電気の基本	――	 ゞ、接続方法	などを理解する。			
判	学	学年末	電流と磁界			磁界の基本	について学び	が、発電機の	原理を理解する。			
エネルギーとその利用 現在使用されているエネルギーについてを考える。	期		エネルギー。	とその利用		現在使用されているエネルギーについてを考える。						

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者			
2年生 進学	ュースAクラ	ス(理系)	理科	物理基礎		必修	3単位	鞠子 和也			
教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等	数研 新課科	呈物理基礎	学習ノート			
授業の	ねらい	波の基本的	な性質を学び	バ、反射・屈折	」、運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。 沂・回折現象の法則性を理解する。 └し、様々な現象とそのしくみについて理解する。						
学習上の	の留意点	現象につい ⁻	て理解し、公	式を覚えるだ	けでなく意味	についても考	きえるようにす	⁻ ること。			
評価	方法		F4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、 ミ験レポート、授業態度を総合的に評価。								
観点短	削評価	し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	等を身につけ	けているかどうだ	平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。			
学習計画	考査		単元 学習目標								
	中間	速度・加速度	Ę		経過時間と	多動距離との	関係から時	刻と位置との関係を知る。			
1	T [H]	落下運動 力			落下運動が 力と運動にご	投下速度運動 ついて理解す		を理解する。			
期	期末	運動の法則			運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式など の公式を使い理解する。						
		仕事と力学的	的エネルギー	-	仕事の原理 を理解する。		ド、仕事とエネ	トルギーの関連性			
	中間	熱と温度			熱運動や内	部エネルギー	-、物質の三	態について理解する。			
2 学	·	熱の利用 			熱力学第一	法則や熱機[関について学 —-—-				
期	期末	波の性質			波の表し方 ⁴	や伝わり方、	横波や縦波な	などを理解する。			
	791710	音と振動			音も波である	ることを確認し	、固有振動に	こついて理解する。			
3		電流と電気技	抵抗		電気の基本	について学び	ヾ、接続方法 ^ッ	などを理解する。			
学期	学年末	電流と磁界			磁界の基本	について学び	、発電機の	原理を理解する。			
79 1		エネルギー	とその利用		現在使用され	れているエネ	ルギーにつし	ヽてを考える。			

				2024年度	シラバス				
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者	
2年生 特進	<u></u> ョースIクラス	ζ.	理科	化学基礎		必修	2単位	大井 慶子	
教科書	啓林館「i版	瓦 化学基礎 」			副教材等	ちくま学芸文	て庫 「化学の	歴史」	
授業の	ねらい			学的な知識と 用いたプレセ			1識の習得に	留まらない、深い学びを	
学習上の	の留意点			oに物語があ 活動も行う <i>た</i>				ることが望ましい。	
評価	i方法			明中間・期末、 業態度を総合		₹)行われる♡	定期試験、実	カテスト、授業内で行う小	
観点兒	別評価	し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどうフ	平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。	
学習計画	考査		単元				学習目標		
1 学	中間	物質の構成原子の構造物質と化学			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。				
期	期末	溶液濃度 化学反応式			質量パーセント濃度%の算出ができる。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。				
2	中間	留学予定 留学しない5	上徒について	は、					
期	期末	9月/10月 11月/12月	物質量と化: 酸と塩基・・						
3 学 期	学年末	1学期・2学期 酸と塩基 中和反応 酸化還元反			物質の構成や化学結合などを復習する。 酸と塩基の定義を理解する。 酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。 酸化と還元の定義を理解する。				

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者		
2年生 特進	ÉコースSクラ	ス(文系)	理科	化学基礎		必修	2単位	大井 慶子		
教科書	啓林館「ill	反 化学基礎」	I		副教材等	第一学習社	「ネオパル	ノート化学基礎」		
授業の	からい			法を実験おる				化還元反応などを扱う。		
学習上の	の留意点	化学は実際 する理解度	と学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。授業に対 る理解度を高めるため、小テストを適宜行う。							
評価	ī方法		4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小スト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。							
観点短	引評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどうだ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習	計画		単元				学習目標			
	中間	物質の構成			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。					
1 学	 	原子の構造				. — - — - — -		ıていることを学ぶ。 		
期	期末	物質と化学組	結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。					
	中間	物質量と化質	学反応式				:ルの概念を3 の意味を理解			
2 学	 	酸と塩基 			酸と塩基の	定義を理解す 	る。 			
期		中和反応			酸と塩基の原	反応により生	じる塩とその	性質について学ぶ。		
	期末	中和滴定			中和反応の	量的関係を理	里解する。中	和滴定の操作を学ぶ。		
3		酸化還元反	応		酸化数を計	の定義を理解 算し、酸化数 判断できるよ	の増減から酢	後化された物質、還元さ		
期	学年末	金属のイオン化傾向			イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。					

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者		
2年生 特進	<u></u> ゴースSクラ	カス(理系)	理科	化学基礎		必修	3単位	山下 遥		
教科書	東京書籍	「化学基礎」			副教材等		ンサー総合(「サイエンスピ	ヒ学」 「ュー化学総合資料」		
授業の	ねらい			法を実験おる				化還元反応などを扱う。		
学習上の	の留意点							習を重視する。また、授 理論化学を学習する。		
評価	i方法			明中間・期末、 業態度を総合		ミ)行われる5	定期試験、実	カテスト、授業内で行う小		
観点5	引評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	事を身につけ		評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習	'計画		単元				学習目標			
		物質の構成					本的な元素 能する手法を	記号を覚える。 学ぶ。		
1	中間	原子の構造						ιていることを学ぶ。 の類似性を学ぶ。		
期		 物質と化学網						違いを理解する。		
	期末	物質量と化学	学反応式		化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。					
		酸と塩基			酸と塩基の気	定義を理解す	 トる。			
	中間	中和反応			酸と塩基の原	豆応により生	じる塩とその	性質について学ぶ。		
2		中和滴定			中和反応の	量的関係を理	理解する。中海	和滴定の操作を学ぶ。		
学		T6 // >= -			酸化還元の	定義を理解す	 する。			
期	期末	酸化還元反	hù			算し、酸化数 判断できるよ		俊化された物質、還元さ		
		金属のイオン	ン化傾向		イオン化傾向	句の違いから	観察される種	重々の現象を理解する。		
					結晶格子の	名前と含まれ	いる粒子の数	や大きさを理解する。		
3		化学結合と	物質の状態		化学結語の	種類と特徴を	を理解する。			
学期	学年末	電池と電気な	分解		電池の原理	を理解し、電	池や電気分解	解の量的関係を理解する。		

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者			
2年生 進学	≐コースAクラ	ス(文系)	理科	化学基礎		必修	2単位	山内 優斗·大井	慶子		
教科書	啓林館「ill	反 化学基礎」	l		副教材等	第一学習社	「ネオパル	ノート化学基礎」			
授業の	からい			とその実践法を実験および実習により育成する。 ら説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。							
学習上の	の留意点	化学は実際 する理解度	と学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。授業に対 する理解度を高めるため、小テストを適宜行う。								
評価	方法		E4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小・スト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。								
観点短	引評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	り等を身につけ		評価②知識及び技能 かの評価③知識・技能 の評価。			
学習	計画		単元				学習目標				
	中間	物質の構成			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。						
1 学	 	原子の構造				. — - — - — -		iていることを学ぶ。 	·		
期	期末	物質と化学組	結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。						
	中間	物質量と化質	学反応式				・ルの概念をE の意味を理解				
2 学	 	酸と塩基 			酸と塩基の	定義を理解す	る。 				
期		中和反応			酸と塩基の原	反応により生	じる塩とその	性質について学ぶ	0		
	期末	中和滴定			中和反応の	量的関係を理	里解する。中和	和滴定の操作を学ん	<i>స</i> .		
3		酸化還元反	応		酸化数を計	の定義を理解 算し、酸化数 判断できるよ	の増減から酢	変化された物質、還	元さ		
期	学年末	金属のイオン化傾向			イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。						

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者		
2年生 進学	≐コースAクラ	ス(理系)	理科	化学基礎		必修	3単位	山下 遥·冨田 弥千	-代	
教科書	東京書籍「	化学基礎」			副教材等 第一学習社「ネオパルノート化学基礎」					
授業の	わらい		学的な知識とその実践法を実験および実習により育成する。 P・分子から説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。							
学習上の	の留意点	化学は実際する理解度を	の物質の性質を高めるため	質・変化を洞察 、小テストをi	察する学問で 適宜行 う 。	ある。したが	って実験、実	習を重視する。授業に	こ対	
評価	ī方法		F4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小Fスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。							
観点5	引評価	し、課題を解え	夫するために必		判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどうだ	平価②知識及び技能を活かの評価③知識・技能や かの評価。		
学習	'計画		単元				学習目標			
	中間	物質の構成			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。					
2 学	 	原子の構造				. — - — - — -		ıていることを学ぶ。 		
期	期末	物質と化学	結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。					
	中間	物質量と化学	学反応式				・ルの概念をE の意味を理解			
2 学	 	酸と塩基			酸と塩基の第	定義を理解す	⁻ る。 			
期		中和反応			酸と塩基の原	反応により生	じる塩とその	性質について学ぶ。		
	期末	中和滴定			中和反応の	量的関係を理	里解する。中	和滴定の操作を学ぶ。	,	
3		酸化還元反応			酸化と還元の定義を理解する。 酸化数を計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。					
期	学年末	金属のイオン化傾向			イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。					

				2024年度	シラバス				
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者	
2年生 特進	ニコースIクラス	ζ	理科	地学基礎		必修	2単位	鞠子 和也	
教科書	東京書籍「	地学基礎」			副教材等	第一学習社	「ネオパル	ノート地学基礎」	
授業の	ねらい	境や将来の	地球像を考え	えていくことを	目的とする。	また、地震や	気象災害など	!点も取り入れ、現在の環 どの時事問題もタイム !!理の問題も解いてゆく。	
学習上の	の留意点	暗記をするが	どけでなく、自	然現象への	理解を深める)。			
評価	方法	年4回(1学期	明中間·期末、	、2学期中間・	期末)行われ	る定期試験	、授業態度を	総合的に評価。	
観点兒	別評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	等を身につけ	ているかどうだ	平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。	
学習計画	考査		単元				学習目標		
1 学	中間	大地とその動き 地球の構造 地球内部の動き プレートの境界			地球内部のエネルギーの動きを考える。 地球内部の力から地殻・地表がどのように変化するか考えていく。				
期	期末	地震のメカニ			日本における地震の仕組みやプレートと火山の関連性、マグマの活動を一連の流れとして理解する。				
2	中間	地層の形成 地質構造 生命の変遷				を理解し地層 れの歴史を実		のようにできるのか考え	
期	期末	宇宙の進化 太陽と惑星			て考える。			の膨張・ビックバンについ 見を理解する。	
	79,341	海洋とエネノ	毎洋とエネルギーの循環 大気の動きを理解し気圧と 太陽からのエネルギーや大る。						
3 学 期	学年末		レギーの循環 や環境。 エネ		大気の動きを理解し気圧と風の関係を理解する。 太陽からのエネルギーや大気の熱の運搬・大気の循環を考る。 気象天気図を理解し日常的な短期予報への理解を深める。 温度、湿度の計算				

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	1名	単	.位	担当者			
2年生 特進	<u>É</u> コースSクラ	ス(文系)	理科	地学基礎		必修	3単位	鞠子 和也			
教科書	東京書籍「	「地学基礎」			副教材	第一学習社	「ネオパル	ノート地学基礎」			
授業の	わらい	境や将来の	地球像を考え	えていくことを	目的とする。	また、地震や	気象災害な	点も取り入れ、現在の環 どの時事問題もタイム 匹理の問題も解いていく。			
学習上(の留意点	暗記をするが	暗記をするだけでなく、自然現象への理解を深める。								
評価	方法	年4回(1学期	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、授業態度を総合的に評価。								
観点5	引評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	等を身につけ	けているかどう	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。			
学習	計画		単元				学習目標				
1 学	中間	大地とその!地球の構造地球内部のプレートの場	動き		地球内部のエネルギーの動きを考える。 地球内部の力から地殻・地表がどのように変化するか考えていく。						
期	期末	地震のメカニ	- 		日本における地震の仕組みやプレートと火山の関連性、マグマの活動を一連の流れとして理解する。						
2	中間	地層の形成 地質構造 生命の変遷				を理解し地層 ずの歴史を実		のようにできるのか考え			
期	期末	宇宙の進化			て考える。			の膨張・ビックバンについ 見を理解する。			
3 学 期	学年末	大気圏・天気大気の運動海洋とエネル	レギーの循環	⊒ py	大気の動きを理解し気圧と風の関係を理解する。 太陽からのエネルギーや大気の熱の運搬・大気の循環を考える。 気象天気図を理解し日常的な短期予報への理解を深める。 温度、湿度の計算						

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者	当	
2年生 進学	ュースAクラ	ス(文系)	理科	地学基礎		選択必修	3単位	鞠子 和也・櫻	井 昭吾	
教科書	東京書籍	「地学基礎」			副教材 第一学習社「ネオパルノート地学基礎」					
授業の	ねらい	環境や将来		考えていくこと				点も取り入れて 害などの時事問		
学習上の	の留意点	暗記をするが	だけでなく、自	然現象への	理解を深める)。				
評価	方法	年4回(1学期	F4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、授業態度を総合的に評価。							
観点兒	別評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	等を身につけ	けているかどうフ	評価②知識及び打かの評価③知識・ の評価。		
学習	計画		単元				学習目標			
1 学	中間	大地とその動地球の構造地球内部のプレートの境	動き		地球内部のエネルギーの動きを考える。 地球内部の力から地殻・地表がどのように変化するか考えていく。					
期	期末	地震のメカニ			日本における地震の仕組みやプレートと火山の関連性、マグマの活動を一連の流れとして理解する。					
2 学	中間	地層の形成 地質構造 生命の変遷				を理解し地層 の歴史を実		のようにできる6	りか考え	
期	期末	宇宙の進化 太陽と惑星	宇宙の進化					の膨張・ビック/ 見を理解する。	ヾンについ	
3 学 期	学年末	大気圏・天気 大気の運動 海洋とエネノ 日本の気象 いて考える。	レギーの循環 や環境。 エネ		太陽からのこ る。	ェネルギーや を理解し日常		を理解する。 運搬・大気の循 報への理解を済		

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	.位	担当者		
2年生 進学	コースAクラ	z	理科	生物基礎演	習Ⅱ	選択	2単位	佐藤 潤		
教科書	東京書籍「	生物基礎」			副教材等	なし				
授業の	ねらい	や思考力を	養う。また、魚		昆虫などの観	現察・実習など		た問題を演習し、応用カ で、授業を通じて科学論文		
学習上の	の留意点		E物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。 年次に使用した生物基礎のノートと東京書籍 「ニューアチーブ生物基礎」を持参すること。							
評価	i方法	授業内に実	施する小テス	ト・確認テスト	ト、実験レポ−	−ト、平常点Ⅰ	こよって評価	する。		
観点別	削評価	し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	事を身につけ	ているかどうだ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1 学 期	中間	・科学的なレポートの書き方 ・顕微鏡を用いた実験問題 ・原核細胞と真核細胞 ・さまざまな細胞 ・タンパク質と酵素 ・遺伝子の本体 ・体細胞分裂とDNA量 ・セントラルドグマ			 ・接眼ミクロメーターの計算問題を理解する。 ・細胞による細胞小器官の有無を理解する。 ・さまざまな細胞の種類や構造を理解する。 ・酵素の同定、基質特異性を理解する。 ・DNAの研究史、DNAの構造、塩基組成を理解する。 ・分裂期の染色体数の計算。 ・半保存的複製の理解。 ・酸素解離曲線について理解する。 					
2 学	中間	・心臓、肝臓・自律神経と			•自律神経系		と体液の循環	・算などの理解。 似について理解。 る。		
期	期末	•免疫				こらき、赤血球		いて理解する。		
3 学 期	学年末	・刺激反応時・植生の多様・遷移とバイ・生態系	集性		 ・刺激に対する反応時間の理解、反射神経とは何か。 ・森林の構造と光について理解する。植生調査の演習。 ・世界と日本のバイオーム、暖かさの指数の理解。 ・炭素・窒素の循環。生態系の物質収支を理解する。 					

	2024年度 シラバス											
	対象		教科		3名	単	位	担当者				
2年生 進学		ス(理系)	理科	理数探究基		必修	1単位	山下 遥				
教科書	数研出版「	理数探究基	礎」		副教材等	なし						
授業の	ねらい		さまざまな事象に関わり、数学的な見方や考え方、また理科の見方や考え方を組み合わせるなど て、探究の過程を通して課題を解決するために必要な基本的な資質や能力を育成することを目的 する。									
学習上0	D留意点		実験を通したレポート作成やグループワークを主とするため、生徒に主体的な取り組みを求める。また、履修済の数学 I の「データの分析」は多用するため、本質的な理解を求める。									
評価	方法	授業内でおる	こなう小テスト	、実験レポ−	-ト、プレゼン	テーション、ヒ	出席を含めた	授業態度について総合				
観点別	川評価	し、課題を解え	下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。									
学習計画	考査		単元				学習目標					
1 学	中間	さまざまな事考察する内容	፮象を数学的 容	・理科的に		を通して課題 過不足なく考覧						
期	期末											
	中間											
期	期末											
3 学 期	学年末					•						

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当	者	
3年生 特進	ÉコースSクラ	ス(理系)	理科	物理		必修選択	6単位	樋口 雅浩		
教科書	数研 「物理	<u>.</u>			数研「新課程 リードLightノート物理」 副教材等 数研「新課程大学入学共通テスト対策 チェック &演習 物理」					
授業の	ねらい				を基にして学んでいきます。 できる力を身につけます。					
学習上(の留意点	現象につい ⁻	て理解し、公	式を覚えるだ	けでなく意味	についても考	きえるようにす	ること。		
評価	i方法		明中間・期末 を総合的に		・期末)行われ	れる定期試験	や授業内で	行う小テスト、実	ミ験レポー	
		し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	事を身につけ	けているかどうフ	平価②知識及び抗 かの評価③知識・ の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	剛体にはたい	らく力のつり ? 『動		カのつり合い・合成、カのモーメントについて理解する。 放物運動や円運動、単振動などカ学全般について理解する。					
期	期末	運動量			運動量や保	·—-—-—- 存則、反発係	―-―-	—- — - — - — 理解する。		
		熱			気体の分子運動や状態変化、熱力学第二法則を理解する。					
	中間	波			波の性質や音、光について理解する。					
2 学		電気			電界や電位	、コンデンサー	ーについて理	!解する。 		
期	期末	電流			電流による配	滋界や回路、	ローレンツカ	について理解す	ける。	
	初小	磁気			電磁誘導や	交流について	で理解する。			
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位	担当者		
3年生 進学	≐コースAクラ	ス(理系)	理科	物理		必修選択	6単位	馬場 幸一		
教科書	数研 「物理	<u>[</u>]			副教材等	数研「リー	ドLightノート‡	勿理」		
授業の	ねらい			学習したことを 般受験に対応						
学習上6	の留意点	スタディノー より多くの問	くタディノートを授業中に使用し、復習用でセミナーを使用します。 らり多くの問題に触れることを意識してください。							
評価	i方法	年4回(1学)	〒4回(1学期中間・期末、2学期中間・期末)行われる試験、授業内の小テストを総合的に評価。							
観点兒	別評価	し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどうフ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	剛体にはたらく力のつり合い			カのつり合い・合成、カのモーメントについて理解する。 放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。					
学	 	さまざまな運 	- — - — - —		以初建勤で	□建到、 年 加	、到なこ刀子。 —-—-	主放に がく 生解する。		
期	期末	運動量			運動量や保	存則、反発係	系数について	理解する。		
		熱			気体の分子	運動や状態	変化、熱力学	第二法則を理解する。		
	中間	波			波の性質や音、光について理解する。					
2 学		電気			電界や電位	、コンデンサ [.]	ーについて理	B解する。		
期	期末	電流			電流による破	滋界や回路、	ローレンツカ	について理解する。		
	粉木	磁気			電磁誘導や	交流について	て理解する。			
3										
学	学年末									
期										

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	单位	担当者		
3年生 特進	ニースSクラン	ス(理系)	理科	化学		選択必修	6単位	大井 慶子		
教科書		化学 Vol.1 化学 Vol.2			副教材等	浜島書店	zンサー総合(「新リピートノ・ 「新リピートノ・	一卜化学③」		
授業の	ねらい	を養成する。	気体や溶液	知識や手法を の性質、化学 質など幅広ぐ	上反応が進行	ン、より高度 ^が するしくみ、	な化学的探究 身近な無機化	のための知識と実践法 た合物、有機化合物、現代		
学習上6	の留意点		っだ化学基礎 こ向けて問題		更とするので、	十分に復習	冒しておくこと。			
評価	方法		明中間・期末、 を総合的に		期末)行われ	る定期試験	、授業内で行	う小テスト、実験レポー		
観点兒	別評価	し、課題を解え	夬するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	り等を身につい		評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	気体の性質 溶液の性 質 物質とエネノ			既知の現象について、種々の法則を用いて理解する。 希薄溶液やコロイド溶液の性質を理解する。 エンタルピー変化の計算ができるようにする。					
学		化学反応の	速さと平衡		弱酸、弱塩基	基、緩衝液 <i>σ</i>	pHを計算でき	きるようにする。		
	[有機化学			有機化合物	の特徴を理解	解する。			
期		脂肪族炭化水素			異性体を含む	め、分子式か	いら構造式が	書けるようにする。		
	期末	酸素を含む 芳香族炭化	脂肪族化合物 水素	勿	官能基の性質や特徴を理解する。					
	中間	無機化学			無機化合物	の性質や製	法を理解する	00		
2 学		高分子化学			身近な高分	子化合物の	製法や性質を	理解する。		
期	期末	入試に向け	た総復習		化学で学ん	だ知識を総動	動員させ、自力	りで入試問題を解く。		
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目		単	单位	担当者		
3年生 進学:	コースAクラン	ス(理系)	理科	化学		選択必修	6単位	冨田 弥千代		
教科書	東京書籍「東京書籍「	化学 Vol.1 化学 Vol.2	理論編」 物質編」		浜島書店 「新訂版リピートノート化学③」 副教材等 浜島書店 「新訂版リピートノート化学⑤」 実教出版 「サイエンスビュー化学総合資料」					
授業の	ねらい	を養成する。	気体や溶液		反応が進行			のための知識と実践法 た合物、有機化合物、現代		
学習上の)留意点		年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。 また、四則演算に始まり、比例、指数、対数等の数学的手法に習熟していることが望ましい。							
評価に	方法		明中間・期末、 を総合的に		期末)行われ	る定期試験	、授業内で行	う小テスト、実験レポー		
観点別	評価	し、課題を解え	は下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活 、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や が力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。							
学習記	計画		単元				学習目標			
		化学結合と約	洁晶		基本的な結	晶構造を立作	本的に捉える。	0		
	中間				物質の物理変化に関する現象・用語の定義を学ぶ。					
1 学		気体と液体の性質 			. — - — -			用いて理解する。 		
期		熱化学方程式			へスの法則	を用いて計算	算する。			
	期末	電池・電気分解			電池の原理	と電気分解の	の量的関係を	理解する。		
	79171	反応速度と平衡			ルシャトリエの原理による平衡の移動を理解する。					
		有機化学			有機化合物の特徴を理解する。					
	中間	脂肪族炭化	水素		異性体を含め、分子式から構造式が書けるようにする。					
2 学		芳香族炭化:	水素 		官能基の性	質や特徴を	理解する。			
期	#n - -	高分子化学			身近な高分	子化合物の	製法や性質を	理解する。		
	期末	無機化学			無機化合物	の性質や製	法を理解する	0		
3										
学	学年末									
期										

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者		
3年生 特進	≝コースSクラ.	ス(理系)	理科	生物		必修選択	6単位	佐藤 潤		
教科書	東京書籍「	生物」			第一学習社「セミナーノート生物」 東京書籍「ニューグローバル生物基礎+生物」					
授業の	ねらい		との関連を図 を身に付ける		物や生物現象	象を更に広範	色囲に取り扱い	ハ、生物学的に探究する		
学習上(の留意点	生物の独自	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。							
評価	i方法	年4回(1学	期中間·期末	、2学期中間	・期末)に行わ	われる定期詞	弍験、平常点 る	を総合的に評価。		
観点5	引評価	し、課題を解え	央するために必	ABCで評価する 必要な思考力・ こつけるために	判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどうだ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1 学	中間	生命現象と知識伝子のは			細胞の構造とはたらきについて、より発展的に学ぶ。 生物のエネルギー代謝について、より発展的に学ぶ。 DNAの複製や転写、RNAの翻訳について、より発展的 に学ぶ。					
期	期末	遺伝子のは生殖と発生	たらき		遺伝子発現と細胞の分化について学ぶ。 動物と植物それぞれの生殖について学ぶ。 動物と植物のそれぞれの発生過程と遺伝子発現に ついて学ぶ。					
2 学	中間	生物の環境 生態と環境	応答		ついて学ぶ。 植物ホルモン 生態学的相	ンと環境応答 互作用と物質	うのしくみにつ 質やエネルギ	いによる行動に いて学ぶ。 ーとの関係性を 系の保全を学ぶ。		
期	期末	生命の進化入試に向け			生物の系統	から、進化のについて学ぶ	ここ。 いしくみについ ぶ。	て学ぶ。 ぱや理論を整理する。		
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者		
3年生 進学	コースAクラス	ス(理系)	理科	生物		必修選択	6単位	三浦 敏		
教科書	第一学習社	「生物」			副教材		「セミナーノ 「セミナー生	一卜生物」 E物基礎+生物」		
授業の	からい		との関連を図 を身に付けさ		物や生物現象	象を更に広範	色囲に取り扱い	い、生物学的に探究する		
学習上(の留意点	生物の独自	ノートを作る。	・板書事項を!	必ずノートに	取る。プリント	〜を必ず提出 [→]	する。		
評価	ī方法	年4回(1学	期中間·期末	・期末)に行わ	われる定期詞	式験、平常点 を	を総合的に評価。			
観点別	引評価	し、課題を解え	決するために必		判断力・表現力	等を身につけ	けているかどうフ	平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1 学	中間		う現象と物質 ミ子のはたらる	ŧ	・生物の基礎である細胞がどのような物質でつくられ、どのような構造をもち、どのようなはたらきをするか学習する。 ・生物の生命活動を支える代謝のしくみをより詳しく学ぶ。 ・DNAの複製や遺伝子発現のしくみ、およびDNAの塩基配列変化に伴う突然変異について学習する。					
期	期末	第2編 遺伝第3編 生殖	ミ子のはたらる もと発生	ŧ	・遺伝子発現と細胞分化の関りについて学習する。 ・生物が同じ種を残すしくみを、細胞、染色体、遺伝子などのさまざまな視点から学習する。 ・動物の発生過程に伴う胚の変化と遺伝子発現について学ぶ。 ・植物の生殖器官である花から種子ができて、発芽し葉・茎が分化するしくみを学習する。					
2	中間	第4編 生物 第5編 生態	の環境応答 ミと環境		動物のいろ植物ホルモ生物と環境生態学的相	いろな行動。 こと環境応復 の相互作用 目互作用と物	とそのしくみに 答のしくみにつ に目を向ける 質やエネルキ	⊒こすしくみを学ぶ。 □ついて学習する。 □いて学習する。 □。 『一との関係性を学ぶ。 保全を学習する。		
期	期末	第6編 生命入試に向け	うの進化と系統 た総復習	統	・進化がなせ・進化の結果 く学ぶ。	だ起きるのか 見られる生生物と生物と				
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位		担当者	
3年生 特進	3年生 特進コースSクラス(理系) 理科 物理演習					必修選択	6単位	樋口	雅浩	
数研「新課程 リードLigh 教科書 数研「物理」 副教材等 数研「新課程大学入学 + & 演習 物理」										
授業の	ねらい	物理の授業	で学んだこと	を演習するこ	とで、応用力	を養っていき	きます。			
学習上の	の留意点	演習を多く熟	ろん、その質	[についても扌	句ってもらいた	こい。				
評価	i方法	年4回(1学)	期中間·期末	、2学期中間	・期末)行われ	れる授業内試	は験と小テスト	を総合	的に評価。	
		し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	事を身につけ	けているかどうフ	かの評値	田識及び技能を活用 西③知識・技能や思	
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	剛体にはたら	らく力のつり で 運動	合い	カのつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。 放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。					
期	期末	運動量								
		熱			気体の分子	運動や状態変	変化、熱力学	第二法	ま則を理解する。	
	中間	波			波の性質や	音、光につい	て理解する。			
2 学		電気			電界や電位	、コンデンサー	ーについて理	解する). 	
期	期末	電流			電流による磁界や回路、ローレンツカについて理解する。					
	791710	磁気電磁誘導や交流について理解する。								
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位位	担当者		
3年生 進学	3年生 進学コースAクラス(理系) 理科 物理演習					必修選択	4単位	櫻井 昭吾		
教科書	数研 「物理	!基礎」∙「物理	<u>[</u>]		製研「リードLightノート物理基礎」 数研「リードLightノート物理」					
授業の	ねらい	理系大学希	望者に対し、	物理全般の	基礎を固める	0				
学習上の	の留意点	物理現象を	理解し、計算	するだけでは	なく応用力を	身につける。	よう意識する	こと。		
評価	ī方法	授業内に実	施する小テス	ト・確認テスト	〜、平常点に。	よって評価す	·3。			
観点兒	引評価	し、課題を解え	央するために必	∖要な思考力・	判断力・表現力	事を身につけ		評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1	中間	運動の法則 さまざまな力		分い	運動の3法則、摩擦力や浮力など運動方程式などの公式を使い理解する。 力のつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。					
期	期末	仕事と力学的 は事と力学的 運動量	- — - — - —	- 	仕事の原理について学び、仕事とエネルギーの関連性について理解する。 運動量や保存則、反発係数について理解する。					
2	中間	熱 波の性質 音と振動			波の表し方	や伝わり方、	横波や縦波な	第二法則を理解する。 などを理解する。 こついて理解する。		
期	期末	電気 電気 電流と電気	-—-—- 坻抗				 について理 [「] 、接続方法 [。]	——————— 2解する。 などを理解する。		
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	目名	単	单位	担当者		
3年生 特進	≛コースSクラ	ス(理系)	理科	化学演習		選択必修	6単位	冨田 弥千代		
教科書	東京書籍		礎」 Vol.1 理論編」							
授業の	からい						に向けた高度 可けた問題演 [:]	な見方・考え方・理解を促 習を進める。		
学習上(の留意点		2年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。 また、受験に向けて問題演習を行う。							
評価	i方法	授業内で実施	施する小テス	ト、確認テス	ト、実験レポ・	一トを含めた	提出物、平常	点により総合的に評価。		
観点5	引評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現ス	り等を身につい		評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習	計画		単元				学習目標			
1 学	中間	物質の構成	と化学結合		物質の構成や元素への理解を深める。 元素の組合せによる結合様式の違いを理解する。 化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。					
期	期末	物質の変化			化学反応式の表す係数の意味を理解する。 酸と塩基の定義や、中和により生じる塩の性質を理解する。 酸化還元反応を捉え、無機化学分野への理解を深める。 化学実験の基礎を学ぶ。					
	中間	共通テスト交私大・国公立	対策 ₹2次試験対策	策		の傾向をもと 桟的な力を養		願校の入試問題対策		
期	期末				•					
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位		担当者	
3年生 進学コースAクラス(理系) 理科 化学演習 選択必修 4単位 山下 遥							遥			
教科書 東京書籍 「化学基礎」 副教材等 実教出版 「ベストフィット化学基礎								礎」		
授業の	ねらい	2学年の化学	ዾ基礎で学ん	だ知識につい	いて、実験・演習を通して実感を伴った理解を深める。					
学習上(の留意点	2年次に学ん	が化学基礎	の知識を必要	更とするので、	. 十分に復習	しておくこと。			
評価	ī方法	授業内で実	施する小テス	ト、確認テス	ト、実験レポー	ートを含めた	提出物、平常	点によ	り総合的に評価。	
観点5	引評価	し、課題を解え	央するために必	必要な思考力・	判断力・表現力	り等を身につけ		かの評価	ロ識及び技能を活用 西③知識・技能や思	
学習計画	考査		単元				学習目標			
	中間	物質の構成			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。					
1 学		原子の構造			原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。					
期	期末	物質と化学組	結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。					
	州本	物質量と化学	学反応式		化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。					
		酸と塩基			酸と塩基の気	定義を理解す	- る。			
	中間	中和反応			酸と塩基の原	反応により生	じる塩とその	性質に	ついて学ぶ。	
2		中和滴定			中和反応の	量的関係を理	里解する。中	和滴定	の操作を学ぶ。	
期	期末	酸化還元反	応		酸化還元の定義を理解する。 酸化数のを計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。					
		金属のイオン	見象を理解する。							
3 学 期	学年末									
期										

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	位位	担当者		
3年生 特進	生コースSクラ.	ス(理系)	理科	生物演習		必修選択	6単位	佐藤 潤		
教科書	東京書籍「	生物基礎」			副教材	東京書籍「	「ニューグロー	-バル生物基礎+生物」		
授業の	りねらい			然科学系に近 や表等を用い				:「生物基礎」		
学習上(の留意点			, 板書事項を! 礎の教科書・				する。		
評価	方法	授業内に実	施する小テス	ト・確認テスト	、平常点に。	よって評価す	·る。			
観点5	引評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	事を身につけ	けているかどうフ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習計画	考査		単元				学習目標			
1 学	中間		の特徴)多様性と共活動とエネル=		・生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。 ・身のまわりの原核細胞・真核細胞の構造を理解する。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。					
期	期末	1章 生物と 2章 遺伝情			・歴史的な研 構造の解明 ・体細胞分裂	F究成果を追 月について、 ピに伴うDNA	それぞれの紹 の複製と分配	学ぶ。 伝子の本体やDNAの 経緯を理解する。 とについて学ぶ。 で現れる過程を理解す		
2 学	中間	第3編 生物 1章 体内環 2章 体内環 3章 免疫		の維持	らきを学ぶ。 ・腎臓におけ て尿とし、必 ・自律神経と	るろ過と再り 要な物質は ホルモンに。 3への侵入を	及収のしくみ! 血液中に残す よる体内環境	臓・肝臓などのはたこより、老廃物は濃縮してはたらきを理解する。の調節の理解する。 入した異物を排除する		
期	期末				気候条件のする過程を知いて学ぶ。生態系にお)違いにもとで 回り、世界や 3けるエネル	日本における	ぎまなバイオームが成立 バイオームの分布につ 物質の循環のしくみ		
3 学 期	学年末									

				2024年度	シラバス				
	対象		教科	科目	1名	単	.位	担当者	
3年生 進学	≐コースAクラ	ス(理系)	理科	生物演習		必修選択	4単位	村山 洋	
教科書 東京書籍 「生物基礎」 副教材 第一学習社 「セミナー生物基礎+生物								物基礎+生物」	
授業のねらい 看護医療系、農学系、自然科学系に進学を希望する生徒に1年次に履修した「生物基礎」 の復習を中心に、グラフや表等を用いる実験問題の演習を行う。									
学習上の	の留意点			、板書事項を! 礎のノートとす					
評価	i方法	授業内に実	施する小テス	ト・確認テスト	〜、平常点に。	よって評価す	る。		
観点兒	別評価	し、課題を解え	夬するために必		判断力・表現力	つ等を身につけ	けているかどうだ	平価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。	
学習計画	考査		単元				学習目標		
1 学	中間		の特徴)多様性と共 : :動とエネル= 		身のまわり多くの生物 物も身近にエネルギー	の原核細胞 の細胞にはないることを知	・真核細胞の 核が含まれて 1る。 系性とエネル	について学ぶ。 構造を理解する。 いるが、核がない生 ギーの通貨としては	
期	期末	1章 生物と 2章 遺伝情			・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明について、それぞれの経緯を理解する。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 ・遺伝情報がタンパク質合成という形で現れる過程を理解する。				
2	中間	第3編 生物 1章 体内環 2章 体内環 3章 免疫		の維持	らきを学ぶ。 ・腎臓におけ て尿とし、必 ・自律神経と	なる過と再り 要な物質はは ホルモンによ なの侵入を	及収のしくみに 血液中に残す よる体内環境	臓・肝臓などのはた こより、老廃物は濃縮し にはたらきを理解する。 の調節の理解する。 入した異物を排除する	
期	期末				・生態系の成り立ちと植生の果たす役割の理解。 ・気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布にいて学ぶ。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。				
3 学 期	学年末								

				2024年度	シラバス						
	対象		教科	科目	目名 単位		位	担当者			
3年生 進学	コースAクラ	ス	理科	理科 物理基礎演習		選択 2単位		馬場 幸一			
教科書	数研 「物理	基礎」			副教材等 数研 新課程物理基礎 学習ノート						
授業の	ねらい	理系大学希	望者に対し、	物理基礎の理	里解を深める	0					
学習上0)留意点	物理現象を引	理解し、計算	するだけでは	なく応用力を	身につける。	よう意識する	こと。			
評価	方法	授業内に実	施する小テス	ト・確認テスト	、平常点に。	よって評価す	る。				
観点別	川評価	し、課題を解え	央するために必		判断力・表現力	り等を身につけ	ているかどうフ	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。			
学習計画	考査		単元				学習目標				
	4 88	速度・加速度	Ę		経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との関係を知る。						
1	中間	落下運動力			落下運動が投下速度運動であることを理解する。 カと運動について理解する。						
期	#0-	運動の法則				 運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式など の公式を使い理解する。					
	期末	仕事と力学的	的エネルギー	-	仕事の原理について理解		、、仕事とエネ	ベルギーの関連性			
		熱と温度			熱運動や内	部エネルギー	-、物質の三	態について理解する。			
	中間	熱の利用			熱力学第一	第一法則や熱機関について学ぶ。					
2 学	中间	波の性質 音と振動						などを理解する。 こついて理解する。			
期	期末	電流と電気技	氐抗		電気の基本について学び、接続方法などを理解する。						
	₩.	電流と磁界			磁界の基本	について学び	、発電機の原	原理を理解する。			
2											
3	当 左十										
学	学年末										
期											

				2024年度	シラバス					
	対象		教科	科目	1名	単	i位	担当者		
3年生 進学	≐コース		理科	化学基礎演	習Ⅲ	選択	2単位	山内 優斗		
教科書	東京書籍「	「化学基礎」			副教材等	実教出版「	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	化学基礎」		
授業の	からい			だ知識や手注 い、基礎から同				音成するものである。主		
学習上(の留意点			の知識を必 要 -トやプリント				演習用のノートのほかに		
評価	ī方法	授業内で実施	施する小テス	ト、確認テス	ト、平常点に	より評価する	0			
観点5	引評価	し、課題を解え	夬するために必	ABCで評価する 必要な思考力・ こつけるために	判断力・表現力	り等を身につけ	けているかどう	評価②知識及び技能を活用 かの評価③知識・技能や思 の評価。		
学習	'計画		単元				学習目標			
	中間	物質の構成			物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。					
1 学		原子の構造			原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。					
期	期末	物質と化学組	結合					の類似性を学ぶ。 違いを理解する。		
	机木	物質量と化学	学反応式		化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。					
		酸と塩基			酸と塩基の	定義を理解す	⁻ る。			
	中間	中和反応			酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。					
2		中和滴定			中和反応の	量的関係を現	里解する。中	和滴定の操作を学ぶ。		
期	 期末	酸化還元反	-—-—-							
		金属のイオン	ン化傾向		イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。					
3 学 期	学年末									